

15 子どもとの信頼関係を築くためのデジタル会話術

スマホや SNS が日常に溶け込んだ今、子どもたちはデジタルの世界で多くの時間を過ごしています。保護者としては「安全に使えているか」「トラブルに巻き込まれていないか」と気になるものですが、ただ心配するだけでは信頼関係は築けません。大切なのは、子どもが「話したくなる」保護者になること。その鍵となるのが、デジタル会話術です。

まず意識したいのは、「否定から入らない」こと。子どもが使っているアプリや見ている動画に対して、「そんなのばかり見ていて大丈夫？」と不安をぶつけると、子どもは心を閉ざしてしまいます。代わりに「それってどんなところが面白いの？」「友達とどんなふうに使ってるの？」と興味を持って聞くことで、自然な会話が生まれます。

次に、「共感」を意識しましょう。たとえば、SNS で嫌なコメントを受けたとき、「そんなの気にしなくていい」と突き放すのではなく、「それはつらかったね」「私も似たような経験があるよ」と寄り添うことで、子どもは安心して話せるようになります。共感、信頼の土台です。

また、保護者自身がデジタルに関心を持つことも重要です。「最近こんなニュース見たよ」「このアプリ便利だったよ」といった話題を共有することで、子どもは「保護者も同じ世界にいる」と感じ、距離が縮まります。知らないことは素直に「教えて」と聞く姿勢も、子どもにとっては嬉しいものです。

信頼関係は、日々の積み重ねで育まれます。デジタルの話題は、子どもとの会話のきっかけにもなります。スマホや SNS について、子どもに「最近どんなことがあった？」と聞いてみましょう。その一言が、信頼への第一歩になるかもしれません。

16 学校任せにしない！家庭での情報モラル教育の重要性

「情報モラル教育は学校でやってくれるから安心」—そう思っていないですか？確かに、学校ではネットの使い方やトラブルへの対処法などを教える機会があります。しかし、子どもがスマホや SNS を使う時間の多くは家庭です。だからこそ、家庭での情報モラル教育が欠かせないのです。

家庭での教育が重要な理由は、まず「日常の中で繰り返し伝えられる」こと。学校では年に数回の授業でも、家庭では毎日の会話の中で自然に情報モラルを育むことができます。「その投稿、誰かを傷つけていない？」「知らない人からのメッセージには気をつけようね」—そんな一言が、子どもの意識を変えるきっかけになります。

また、家庭では子どもの性格や成長段階に合わせた対応が可能です。好奇心旺盛な子には「調べる力」を育てる工夫を、慎重な子には「相談する力」を伸ばすサポートを。保護者だからこそできる、きめ細やかな教育があるのです。

さらに、保護者自身が情報モラルを意識することも大切です。スマホを使いながらの食事、無断で子どもの写真を SNS に投稿する行為など、大人の振る舞いが子どもに影響を与えます。「大人がやっているからいいんだ」と思わせないためにも、まずは自分の行動を見直す必要があります。

情報モラルは、単なる知識ではなく「生き方の姿勢」です。学校任せにせず、家庭でこそ育てるべき価値観。子どもと一緒に考え、話し合い、日々の中で実践することが、子どもをネット社会の中で守る力になります。